

まちの家計簿

財政事情を公表しつむね

皆 さんは給料などの入ってくるお金と、食費・光熱水費・教育費などの出ていくお金を計算しながら家計をやりくりしていると思います。

霧島市でも同じように、1年間にいくらかお金が入ってくるか(歳入)と、どの仕事にいくらかお金を使うか(歳出)を見積もり、計画を立てて運営しています。このようなお金の計画を見積もったものを「予算」、予算に基づいてやりくりした結果を「決算」といいます。

市では条例に基づき毎年11月、前年度決算と現年度の財政事情を公表しています。

霧 島市の令和2年度の一般会計の決算は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に対応するため、過去最多となる17号に及ぶ補正予算を編成し、16弾にわたる霧島市新型コロナウイルス感染症緊急対応策を実施したこと

で、歳入が前年度に対して29・0%増の総額820億3146万円、歳出が前年度に対して28・5%増の総額783億2475万円となりました。この結果、合併以降で最も大きい決算額になったものの、財源として国の特別定額給付金125億6742万円や、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金17億4100万円などを有効活用したことで、一般財源の支出を抑えることができました。現在も引き続き、必要な対応を行っています。

歳入から歳出を差し引いた形式収支は37億671万円の黒字、さらに翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた実質収支(決算剰余)は27億1336万円の黒字となりました。

決算剰余金は法令に基づき、翌年度以降に積み立てなどを行うほか、各種事業の財源として活用します。

一般会計で管理する財産には土地・建物の他、貯金に当たる「基金」があります。年度間の財源調整や特定の目的のための資金として積み立てています。年度間の財源調整には、借金である「市債」を発行する方法もあります。長期間利用する施設建設のため、次世代にも費用を負担してもらおうような場合に有効な手段で、後の返済が大きな負担とならないよう計画的な発行に努めており、近年は残高が減少しています。

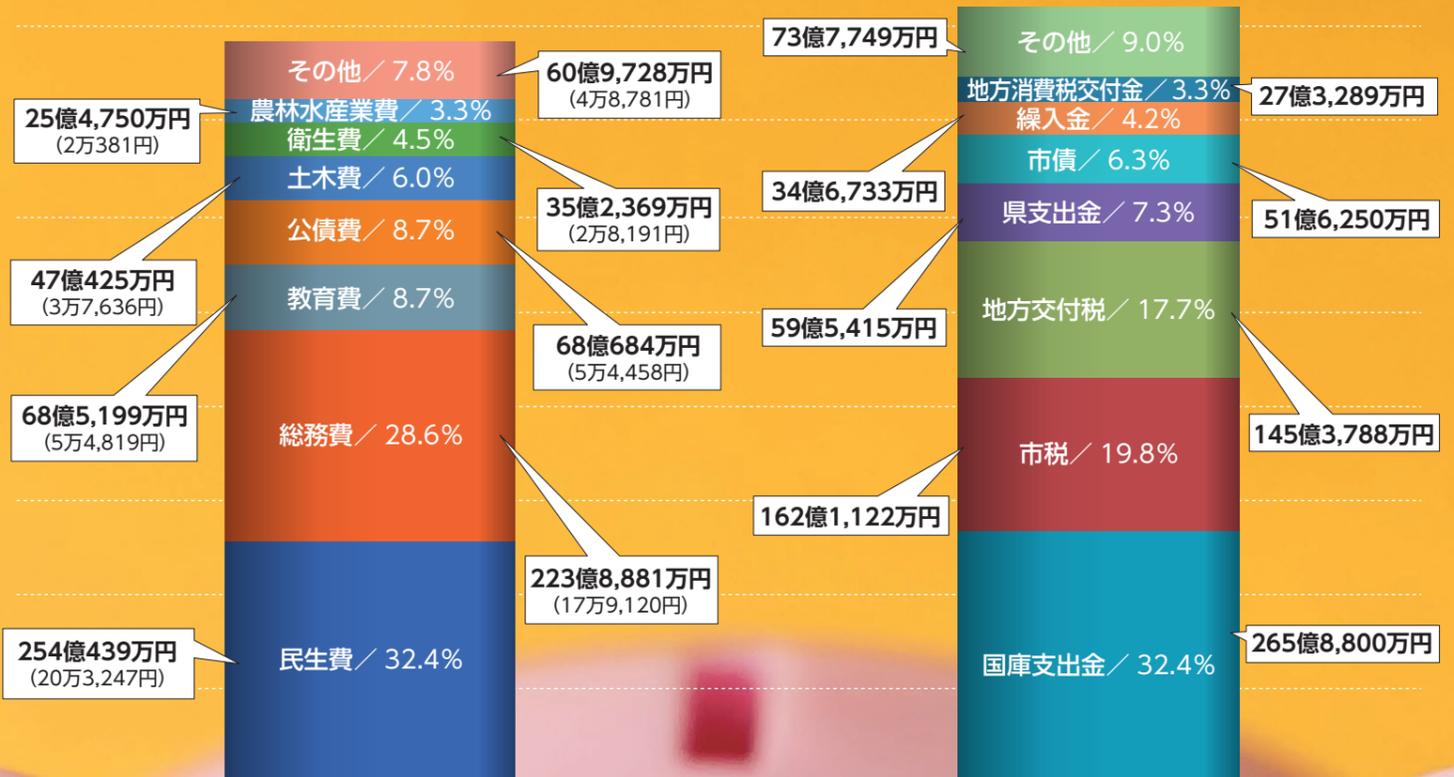


令和2年度 一般会計の決算

歳出 783億2,475万円

()内は市民一人当たりの金額

歳入 820億3,146万円



総額 154億円
(うち一般財源3億円)
国や県の交付金を活用しました。

令和2年度の主な新型コロナウイルス感染症緊急対応策

- 特別定額給付金の支給 **126億円**
- 事業継続支援給付金の支給 **8億円**
- プレミアム付商品券の発行 **2億円**
- 子育て世帯臨時特別給付金の支給 **2億円**

医師会医療センターへのPCR検査機器導入、出産祝商品券の支給、ひとり親世帯臨時特別給付金の支給、小中高校等感染症対策用品の購入など

◎財産の状況 (令和3年3月31日現在)

区分	現在高
土地	3,669ha
(うち市有林)	(2,019ha)
建物	903,147㎡
計	231億7,558万円
基金	
内	
財政調整基金	68億2,554万円
減債基金	22億9,467万円
特定建設事業基金	34億7,000万円
その他の基金	105億8,537万円
有価証券	2億4,150万円

(企業会計を除く)

◎市債残高の推移 (令和2年度末現在)



用語説明 (歳入)

- 国庫支出金** 市が行う特定の事業に対して、国から交付されたお金
- 市税** 市民税や固定資産税などに納められた税金
- 地方交付税** 地方公共団体が等しく行政サービスを提供できるよう、一定の基準により国から自治体に配分された税金
- 県支出金** 市が行う特定の事業に対して、県から交付されたお金
- 市債** 市が行う公共事業などの財源として、財政負担の平準化と世代間の負担の公平化などを図るため、国などから借りたお金
- 繰入金** 基金(市の貯金)や特別会計などから繰り入れられたお金
- 地方消費税交付金** 地方消費税の一部を人口などで案分して国から交付されたお金
- その他** 繰越金、使用料及び手数料、諸収入、地方譲与税、負担金及び負担金、財産収入、寄附金として納められたお金など

用語説明 (歳出)

- 民生費** 高齢者や障がい者、児童の福祉推進などに使われたお金
- 総務費** 総務人事管理、財産管理、企画調整、地域振興、税務事務などに使われたお金
- 教育費** 公立学校の管理運営や施設整備、生涯学習の推進などに使われたお金
- 公債費** これまでに公共事業などの財源として借り入れた借金(市債)の返済に使われたお金
- 土木費** 道路や公園、公営住宅などの整備に使われたお金
- 衛生費** ごみ、し尿の処理や健康増進事業などに使われたお金
- 農林水産業費** 農業、林業、畜産業、水産業などの振興に使われたお金
- その他** 消防費、災害復旧費、議会費、労働費、商工費、公営企業会計への支出に使われたお金

令和3年度上半期(9月30日現在)の財政状況

ここでは今年度上半期の財政状況を紹介します。
一般会計予算現額661億6,140万円に対し、収入率が46.9%、執行率が37.1%となっています。

◎一般会計(歳入)

	予算現額	収入済額	予算構成比	収入率
市 税	150億5,594万円	96億3,835万円	22.8%	64.0%
国庫支出金	140億 513万円	39億7,277万円	21.2%	28.4%
地方交付税	128億5,000万円	100億2,574万円	19.4%	78.0%
市 債	62億2,010万円	0円	9.4%	0.0%
県 支 出 金	53億1,116万円	4億 257万円	8.0%	7.6%
繰 入 金	42億2,661万円	0円	6.4%	0.0%
地方消費税交付金	26億5,000万円	15億7,787万円	4.0%	59.5%
そ の 他	58億4,246万円	54億 260万円	8.8%	92.5%
歳入合計	661億6,140万円	310億1,990万円	100.0%	46.9%

◎一般会計(歳出)

	予算現額	支出済額	予算構成比	執行率
民生費	263億1,783万円	106億9,989万円	39.8%	40.7%
総務費	80億3,112万円	24億1,603万円	12.1%	30.1%
公債費	70億8,579万円	34億8,679万円	10.7%	49.2%
教育費	65億1,142万円	24億 927万円	9.8%	37.0%
土木費	49億2,649万円	11億7,479万円	7.5%	23.8%
衛生費	48億2,321万円	15億9,979万円	7.3%	33.2%
農林水産業費	22億4,067万円	7億8,751万円	3.4%	35.1%
そ の 他	62億2,487万円	19億8,304万円	9.4%	31.9%
歳出合計	661億6,140万円	245億5,711万円	100.0%	37.1%

◎特別会計

会 計 名	予算現額	歳 入		歳 出	
		収入済額	収入率	支出済額	執行率
国民健康保険	148億8,133万円	60億9,196万円	40.9%	55億8,963万円	37.6%
後期高齢者医療	15億6,683万円	5億4,049万円	34.5%	5億3,618万円	34.2%
介護保険	115億3,304万円	59億 984万円	51.2%	45億8,155万円	39.7%
交通災害共済事業	1,627万円	1,953万円	120.0%	234万円	14.4%
温泉供給	6,794万円	3,795万円	55.9%	2,870万円	42.2%

◎財産と市債の状況 (企業会計を除く)

区 分	現在高	一人当たり現在高	
土 地 (うち市有林)	3,669ha (2,019ha)	0.029ha (0.016ha)	
建 物	903,090㎡	7㎡	
基 金	261億4,840万円	209,501円	
内 訳	積立基金	225億9,670万円	181,045円
	その他の基金	35億5,170万円	28,456円
有価証券	2億4,150万円	1,935円	
市 債	495億6,148万円	397,086円	

※一人当たり現在高は、同日現在の住民基本台帳人口124,813人で除して算出したものです。

◎企業会計

会 計 名	収益的収入・支出				資本的収入・支出			
	収入	収入率	支出	執行率	収入	収入率	支出	執行率
水 道 事 業	予算額	24億4,301万円	20億6,959万円	16.5%	300万円	-	21億2,198万円	14.2%
	収入済額または執行済額	9億3,230万円	3億4,118万円		0円	-	3億 178万円	
工業用水道事業	予算額	2,718万円	2,718万円	14.0%	0円	-	0円	-
	収入済額または執行済額	219万円	380万円		0円	-	0円	
下 水 道 事 業	予算額	15億5,357万円	11億3,482万円	14.9%	3億3,047万円	7.2%	10億7,057万円	34.6%
	収入済額または執行済額	6億 515万円	1億6,891万円		2,370万円	-	3億6,997万円	
病 院 事 業	予算額	66億6,236万円	65億4,368万円	42.5%	7億 430万円	-	10億7,220万円	9.7%
	収入済額または執行済額	28億 531万円	27億8,295万円		0円	-	1億 445万円	

※資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額は、損益勘定留保資金、利益剰余金などで補っています。

霧島市では、年度ごとの「まちな家計」の収支を保ちながら、将来にわたり持続的な財政運営ができるよう取り組んでまいりました。

今後も限られた財源を有効活用するために、既にある事業の効果や効率性などを常に検証した上で、内容の見直しを図り、節減・合理化の取り組みを進めます。

これからも市民の皆さんが安心して暮らすことができるよう、身の丈に合った健全な財政運営に努めていきます。

問=財政課 ☎(64)0917

過去の財政事情はホームページに掲載しています。



令和2年度 特別・企業会計の決算

霧島市には、五つの特別会計と四つの企業会計があります。決算状況は表のとおりです。

◎特別会計

会 計 名	歳 入	歳 出	差 引
国民健康保険	149億5,253万円	148億608万円	1億4,645万円
後期高齢者医療	15億4,457万円	15億3,782万円	675万円
介護保険	114億9,512万円	110億6,779万円	4億2,733万円
交通災害共済事業	2,442万円	892万円	1,550万円
温泉供給	7,292万円	6,643万円	649万円
計	280億8,956万円	274億8,704万円	6億 252万円

◎企業会計

会 計 名	収益的収入・支出		資本的収入・支出	
	収入	支出	収入	支出
水道事業	24億2,731万円	17億9,893万円	300万円	13億 765万円
工業用水道事業	2,724万円	2,527万円	1,028万円	1,028万円
下水道事業	11億7,971万円	10億9,910万円	5億 729万円	8億4,013万円
病院事業	61億4,551万円	61億 195万円	1億 694万円	5億2,634万円
計	97億7,977万円	90億2,525万円	6億2,751万円	26億8,440万円

※資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額は、損益勘定留保資金、利益剰余金などで補っています。

用語説明 収益的収入・支出/企業の経営活動に伴って発生する収益と費用(料金収入、人件費など)
資本的収入・支出/将来の経営活動に備えて行う建設改良などに関する費用とその財源となる収入

市のお金が足りているか「借金をし過ぎているか」など、市の財政が健全かどうかを判断する物差しとして、各種指標(下表)があります。

例えば、削減が難しい義務的経費などの経常的な支出(固定的に支出されるお金)が、市税など経常的な収入(安定的に確保できる見込みのお金)に占める割合を示す「経常収支比率」は、前年度と比べて1・5ポイント改善し、90・5%となりました。

国が法で定めている「健全化判断比率」関係では、財政規模に占める借入金返済額の割合を示す「実質公債費比率」が前年度と比べて0・2ポイント改善し、6・5%となりました。一般会計と企業会計を含む全会計の実質赤字額に関する比率や、将来の実質的な財政負担の大きさを示す比率はいずれも、国が健全化を促す基準を下回っており、本市はおおむね健全な財政運営であるといえます。

◎主な指数など(決算統計、健全化法)

指 数 等	令和2年度	令和元年度
1 財政力指数	0.56	0.56
2 経常収支比率	90.5%	92.0%
健全化判断比率		
3 実質赤字比率	-	-
4 連結実質赤字比率	-	-
5 実質公債費比率	6.5%	6.7%
6 将来負担比率	-	-
7 資金不足比率	-	-

※「-」の表記は、赤字額、将来負担比率、資金不足額がないため、記載すべき比率がないことを表します。

用語説明

- 1 財政力指数** 地方交付税法に基づき算出した支出に対する収入の割合を指標化したもの(3年間の平均値)。一般的に「1」に近いほど、さらに「1」を超えるほど財政力が強いとされる。
- 2 経常収支比率** 義務的経費など、削減が難しい経費がどの程度あるか指標化したもの。比率が低いほど、お金の使い道に自由度があるとされる。
- 3 実質赤字比率** 一般会計などの財政規模に対する実質赤字額の比率。(早期健全化基準:11.63%)
- 4 連結実質赤字比率** 全会計を対象とした財政規模に対する実質赤字額が資金の不足額の比率。(早期健全化基準:16.63%)
- 5 実質公債費比率** 財政規模に対する借入金返済額などの比率(3年間の平均値)。(早期健全化基準:25%)
- 6 将来負担比率** 一般会計などの借入金(地方債)や将来支払っていく可能性のある負担などの現時点での残高が財政規模に占める比率。(早期健全化基準:350%)
- 7 資金不足比率** 公営企業会計の資金不足額の事業規模に対する比率(霧島市の公営企業会計:水道事業、工業用水道事業、病院事業、下水道事業、温泉供給)。(経営健全化基準:20%)